

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	音楽と社会		
担当者(Instructors)	水野 伸子	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)			
<p>音楽は社会や文化を反映するものであるとともに、反発や抵抗も映し出す鏡でもある。時代の社会の影響を受けて発展してきた現代の多様な音楽文化についてのレクチャーとディベートおよびワークショップを通して、音楽文化を社会との関わりからとらえ直すことを目的に行う。各授業のテーマは音楽の多様性、社会性、生存価、ICT等について扱う。</p>			

■ 授業形態・授業の方法 (Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	各授業のテーマに関するレクチャー（講義）とディベート（議論）とワークショップ（体験）から構成する。ディベートはグループワークとその結果を授業内で発表し議論するまでの内容とする。ワークショップでは実際にiPadのDAWソフトを用いた音楽編集も予定している。

■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	本授業の目的と概要	音楽文化を社会との関わりからとらえ直すという本授業の目的および授業方法であるレクチャー、ディベート、ワークショップの表す内容を理解する。導入として自身の音楽との関わりからなる年表を作成する。	□
第2回	音楽のもたらす連帯・融和	民族音楽学や文化人類学で示された音楽と連帯や融和を、体験を通して理解する。グループで1音ごとの楽器を用いた合奏の練習・発表を通して人間関係を円滑にして互いの協力のもとに完成することを体感する。	□
第3回	西洋と東洋の融合を計る日本音楽の可能性：レクチャー	「NHK blends」の中から、ラテン曲であるJustin BieberのDespacitoの光山組による尺八と箏のカバーを取り上げ、他国の音楽との比較から日本音楽のコンテンポラリーな可能性について考える。	□
第4回	西洋と東洋の融合を計る日本音楽の可能性：ディベート	グループごとにテーマを設定し（津軽三味線の演奏者である吉田兄弟や「NHK blends」等から和楽器で洋楽を演奏するミュージシャンを取り上げる）、演奏の分析や社会的役割等を議論し、その結果を発表交流する。	□
第5回	音楽の社会性：指揮者とオーケストラの関係	音楽社会学を説いたテオドール・アドルノの「音楽社会学序説」をもとに、指揮者とオーケストラとの関係について論じる。一人では演奏ができない指揮者は一方でオーケストラや体制の影響を受ける立場にある。実際の演奏の視聴も交えながら多角的に論じる。	□
第6回	音楽の生存価：レクチャー	東ティモールの独立を扱ったドキュメンタリー「カンタ！ティモール」の鑑賞を通して、人が生きることと音楽との関わりについて学ぶ。	□
第7回	音楽の生存価：ディベート	「カンタ！ティモール」の監督である広田奈津子氏からドキュメンタリー作成に関わる話を伺い、音楽と人間の交互作用についてグループワークし、その結果を発表交流し監督との質疑応答を経て音楽の生存価に対して考える。	□
第8回	音楽の生存価：グループ発表	前回の授業でグループワークした内容をパワーポイントにまとめ全体場で発表し。意見交流することにより音楽の持つ生存価について自分なりの考えをもつ。	□
第9回	音楽の多様性 (diversity) : レクチャー	在日韓国人でありLGBTであることを公表し活動するシャンソン歌手今里哲氏の人生と音楽を取り上げ、本人へのインタビューと演奏を通し、自分らしく生きることの尊さを学ぶ。	□
第10回	音楽の多様性 (diversity) : ディベート	人種や国籍、性別、障がいの有無、性的指向、価値観などの多様性と音楽との関係について、グループごとにテーマを設定し、それに関する内容を調べ議論した結果をパワーポイントにまとめる。	□

第11回	音楽の多様性：グループ発表	前回の授業でまとめた音楽の多様性についての各グループの内容を発表交流し、質疑応答等のさらなる議論により音楽の多様性の理解を深めるとともに、自分らしく生きることの意味を考える。	<input type="checkbox"/>
第12回	DAWソフトを用いた音楽作成：ワークショップ	iPadまたはパソコンを用いてDAWソフトウェアの一つGarageBandの使い方を学び、メロディの入力方法、コードの理解、パーカッションの操作方法等を中心に理解する。	<input type="checkbox"/>
第13回	DTMの可能性：ワークショップ	DAWソフトGarageBandを用いて、グループごとに音楽制作・編集を実際に行う。出来上がった演奏をプロジェクターに繋いで発表交流し鑑賞し合うことにより、DTMのこれからの音楽文化の一旦を担う可能性について考える。	<input type="checkbox"/>
第14回	Musicking (ミュージッキング) の意味	演奏や作曲だけでなく音楽アプリを用いた聴取など全ての人間による音楽をめぐるアクション全般を表すMusicking (ミュージッキング) の概念について理解するとともに、自分自身のMusickingから音楽との関係を捉え直す。	<input type="checkbox"/>
第15回	音楽と社会	音楽の背景を追求すると社会が見えてくる。本授業でテーマとした内容を総括し音楽と社会の関係を改めて考え、自分らしく生きるために何が課題であるのかを明確にする。	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として、次の授業で学ぶテーマに関して図書館の本やインターネットの情報から予習し、疑問を明確にする。(2時間程度)。事後学習では、授業でレクチャーされた内容に対する自身の考えをまとめたり、グループでまとめた内容の整理をして発表の準備をする(2時間程度)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出した課題やレポートは添削して返却し、次回の授業の中でフィードバックする。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	音楽を社会的・文化的側面から捉えた本授業の内容を理解し、意見交流を通して自身の音楽観を広げることができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			40%	60%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験では、授業のまとめとして音楽の社会的・文化的課題に対するレポート作成を予定している。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		

4		
5		